

## WICI ジャパン 統合レポート・アワード 2020 の審査結果

World Intellectual Capital/Assets Initiative(「世界知的資本・知的資産推進構想」以下「WICI」)の日本組織である一般社団法人 WICI ジャパン(事務局:東京都千代田区 代表理事 北川哲雄)は、「統合報告(Integrated Reporting 以下<IR>」)の普及活動を日本において推進する方策として、WICI ジャパン「統合報告優良企業賞」表彰制度を2013年に創設しました。以来、毎年、上場日本企業が発行した統合報告書について、所謂「勝手審査」の方式で評価を行い、今回で第8回目を迎えました。ここにその審査結果をお伝えします。

なお、WICI ジャパンは本年10月1日より一般社団法人として新たにスタートいたしました。それを機に本表彰制度の名称を「WICI ジャパン 統合レポート・アワード」という名称に変更し、各賞の名称も改訂いたしました。

- ◎**優秀企業賞(ゴールド・アワード)**:昨年度までの「優秀企業大賞」に対応する表彰  
統合報告書としての完成度が極めて高く、他の企業の統合報告の模範となる統合レポートであり、かつ統合的思考で経営が実践され、中長期の価値創造力が各ステークホルダーとの関係で分かりやすく示されており、今後も企業価値を高めていくことに期待が持てる企業として、次の2社を表彰する。

伊 藤 忠 商 事 株 式 会 社  
株 式 会 社 日 立 製 作 所

(アイウエオ順)

- ◎**優良企業賞(シルバー・アワード)**:昨年度までの「優秀企業賞」に対応する表彰  
統合報告書としての完成度が高い、または、財務・非財務の情報が十分に記載されており、統合報告書としての重要な内容要素が織り込まれ他の企業の統合報告の範となりうる企業として、次の3社を表彰する。

味 の 素 株 式 会 社  
株 式 会 社 エヌ・ティ・ティ・データ  
株 式 会 社 三 菱 ケミカルホールディングス

(アイウエオ順)

- ◎**特別企業賞(ブロンズ・アワード)**:昨年度までの「奨励企業賞」に対応する表彰  
優良企業賞(シルバー・アワード)には至らないものの、統合報告として求められる要素において、特に優れた特長、工夫などが見られ、他の企業の統合報告作成において大いに参考となりうる統合レポートであり、将来の優良企業賞(シルバー・アワード)に値する報告書の発行が期待される企業として以下の4社を表彰する。

カ ゴ メ 株 式 会 社  
住 友 金 属 鉱 山 株 式 会 社  
東 京 応 化 工 業 株 式 会 社  
日 本 ユ ニ シ ス 株 式 会 社

(アイウエオ順)

## 審査に関する説明

### 1. 審査の目的

本表彰制度の目的は、事業活動実績の財務報告に事業活動の価値創造を支える見えざる経営資源を加え、事業活動における両者の関係と結びつきを簡潔・明瞭に表現することにより、ステークホルダーが当該企業の価値創造活動を一層適確に捉えられるようになる報告書の作成を企業に促すことにあります。このような報告書が継続して提供されれば、企業とそのステークホルダーとの双方向コミュニケーションが高められ、企業の価値創造ストーリーを適確に捉えられるようになることを通して、事業体と社会の持続可能性を向上させることに繋がるものと WICI は考えております。このような報告書の作成・提供は、WICI が協力団体となっている IIRC が展開する事業報告活動と軌を一にするものに他なりません。

具体的には、本表彰制度の審査において受けた評価を次年度以降の「統合報告活動」の取組みに反映できるように促すことで、統合報告の向上につなげることを主たる目的とし、「統合報告」「コーポレート レポート」「アニュアル レポート」等の名称の如何を問わず、直近の最終決算期末を基準とした年次報告として、上場会社が発表したものを対象に審査を行いました。

### 2. 審査ポイント

- 1) IIRCが定める<IR>フレームワークに定める必須記載事項を反映して、財務情報と非財務情報が定量的、定性的に整理され、またそれらが統合的に企業の価値創造力を示すよう工夫され、当該発行体の「価値創造ストーリー」が簡潔明瞭に記されているか。
- 2) 過去の事業活動で達成された成果と残された課題が整理され、それと今期の実績との繋がりが明確にされていると共に、それらを踏まえた将来の事業展開に関する戦略が、そのリスクと合わせて適確に見通せるようになっているか。
- 3) 営む各事業活動の価値創造ドライバーがKPI等を使って示され、経時的ないしピアグループ間で比較できるような形で提供され、また他の財務・非財務のデータとの繋がりが示されているか。
- 4) 事業活動の長期にわたる持続可能性を支える ESG 情報が提供され、当該発行体に相応しいガバナンス、経営監視体制が保たれているか。
- 5) 経営執行陣が自社の資本コストを自覚し、上場企業として株主への意識、及びその他のステークホルダーへの配慮とのバランスをもって経営に取り組んでいるか。

### 3. 審査手順

- 1) 審査事務局は、事務局の2名と審査補助要員が次の手順により予備審査を行った。
  - ① 東京証券取引所市場第一部上場銘柄のうち 2020年9月末日の時価総額上位300社をリストアップし、上記「審査ポイント」に照らし、名称の如何にかかわらず<IR>に相当する年次報告書を発行している企業を選別した。

- ② また、時価総額上位 300 社には含まれていないが、<IR>に相当する年次報告書作成していると判断できる**発行体 306 社を上記の企業に加え**、WICI「統合報告優良企業賞」の第1次審査対象企業(以下「1次審査企業」)とした。なお、前年大賞を受賞した日本精工、また前々年に大賞を受賞した MS&AD は、前年までの表彰基準に従い、今年度の審査対象から除外している
- ③ 上記第1次審査企業の発行する<IR>について、上記の「審査ポイント」を<IR>の一般的な構成に応じた具体的な評価項目に分解して、委員会事務局が独自に作成した「WICI統合報告優良企業1次審査シート(以下「1次審査シート」)」により評価を行った。但し、**審査対象は原則として 2020 年 10 月 16 日までに最新の<IR>として、HP に公開されているものに限定した。**
- ④ 1次審査シートによる評価にもとづき、一定以上の評点を得た1次審査企業を相対的に比較し、本審査候補企業として以下の 24 社を選び、2次審査対象企業として審査委員会に諮ることとした。なお、この 24 社の内、昨年も2次審査の対象となった企業は 10 社であり、過半数の企業が「新顔」であった。

#### <2次審査対象企業>

大和ハウス工業、アサヒグループ Hld、味の素、カゴメ、王子ホールディングス、東京応化、三菱ケミカルホールディングス、野村総合研究所、ダスキン、マンダム、住友金属鉱山、ナブテスコ、荏原、ミネベアミツミ、日立製作所、横河電機、シスメックス、デンソー、伊藤忠商事、日本ユニシス、ユニ・チャーム、東急、NTTデータ、SCSK

#### 2) 審査委員会では、次の手順により本審査を行った。

- ① 事務局より、1次審査によって選別された本審査候補企業 24 社を審査委員に提示し、本審査から除くべき企業及び追加すべき企業について照会した。
- ② 審査委員から候補企業についての削除・追加の申し出はなかったため、選定された本審査候補企業 24 社について、各審査委員が利害関係を有しない企業を割り当て、1社あたり審査委員 4 名が審査を行うこととした。
- ③ 次に事務局の作成した「WICI 統合リポート・アワード 2次審査シート(以下 2次審査シート)」を提示し、審査項目及び配点について諮ったところ、複数の審査委員から変更すべき点などの指摘を受け、変更案を議論し、最終案をまとめ、審査委員全員の承認を得た上で、修正後の 2次審査シートに基づき評価を行った。
- ④ 審査委員の 2次審査シートによる評価が揃ったところで、審査員が集い、審査委員長の司会進行のもと、2次審査会を催し、審査シート評点の実スコアおよびその偏差値スコアを勘案し、各審査委員の評価、推薦を基礎として、最終の 3次審査対象企業を以下の 9 社に絞り込んだ。

#### <最終審査対象企業>

味の素、カゴメ、東京応化、三菱ケミカルホールディングス、住友金属鉱山、日立製作所、

伊藤忠商事、日本ユニシス、NTTデータ

- ⑤ 上記 9 社の報告書について、審査委員との利害関係の有無を確認した上で、全ての審査対象企業と利害関係を有しない審査委員が 9 社の<IR>を精読したうえで、上位 5 社の順位付評価、及び各賞の表彰基準(前年基準)に従った表彰推薦企業の推薦意見を付した上で提出することとした。
- ⑥ 審査委員から 9 社の審査結果が揃ったところで、最終審査会を開催し、まず、今回の表彰基準と表彰の名称を議論した。その結果、以下のような表彰を行うことが決定された。そのうえで厳正な審査のための議論を経て、今回の審査結果に至った。

<表彰名>

1. 優秀企業賞(ゴールド・アワード):昨年度までの「優秀企業大賞」に対応する表彰
2. 優良企業賞(シルバー・アワード):昨年度までの「優秀企業賞」に対応する表彰
3. 特別企業賞(ブロンズ・アワード):昨年度までの「奨励企業賞」に対応する表彰

## 受賞企業の評価結果

### 1. 優秀企業賞(ゴールド・アワード)

#### 1-1. 伊藤忠商事株式会社

総評:既存のスタイルを越えた新たな統合報告書。型にとらわれず、世界観を示したうえで、ビジネスが語られている「読ませる」構成となっている。経営の考え方がにじみ出てくるように圧倒的な説得力がある。毎年の個性豊かなCEOメッセージも非常に高く評価できる。また、独自アイデアが満載で価値創造プロセスと ESG などの非財務情報の融合が図られ、持続的成長が説明されており、理解がしやすい。特に、「三方良し」の思想を過去・現在・未来に合わせての理論構成となっている点は完成度が高い。

#### 1-2. 株式会社日立製作所

総評:統合報告書として求められる内容・説明について十分な記載がなされている。広範な事業・製品群にかかわらず、それらに対する横串を含めて、よく整理して説明されている。持続的成長戦略を多角的かつ統合的に説明している点も統合報告としての重要な要素を押さえている。特に全編を通して社会イノベーション事業を旗印にした成長戦略の訴求が進み、またリスクと機会、ESG への取組み状況の説明なども詳細になり、透明性が向上している。昨年より完成度が増した優れたレポートである。

### 2. 優良企業賞(シルバー・アワード)

#### 2-1. 味の素株式会社

総評:統合報告書として求められる内容・説明において欠けている要素が少ない。従来から、ASV を経営の根幹に据え、CSR、社会価値に関する説明は充実していたが、経済価値に関する説明も改善している。統合報告としてのバランスが良く、読みやすい内容である。特に 2030 年への道筋をバックキャストしてうまく説明している点も高く評価できる。

#### 2-2. 株式会社 NTT データ

総評:統合報告書として求められる内容・説明が上手に記載されており、財務・非財務情報のバランスが取れている。社長メッセージが、戦略中心に力強く語り、かつ終りの方の ESG 重要課題への取り組みの文節で統合思考発言と解せる説明もあり、共感が持てる秀逸な内容になっている。報告書全体を通して、ESG 課題を経営戦略(中期計画)に織り込んで経営を進めている姿が窺われ、コネクティビティを感じさせる。

#### 2-3. 株式会社三菱ケミカルホールディングス

総評:自社事業の「社会性」の強い認識を起点に、経営上の重要課題(マテリアリティ)を特定し、それらの解決を視野に「KAITEKI 経営」なる独自の統合思考的価値創造プロセスを描き、それが全編に流れている独自性あるレポート。MOE、MOS、MOT という 3 つの軸

で取り組みを記述しており、示された「成長事業群」からいかに価値創造が行われるかを伺うことができる。また、サステナビリティに関する情報も網羅的で好感が持てる。

### 3. 特別企業賞(ブロンズ・アワード)

#### 3-1. カゴメ株式会社

総評: トマト企業から野菜の会社への未来志向が読みやすく展開されていて好感が持てる。

ビジネスモデルの表現、重要課題(マテリアリティ)抽出、打ち手、財務インパクトが適切な情報量で整理されている。また、長期ビジョンを掲げ、企業の成長と社会的インパクトを同時に追求しようとする意志を感じる。その結果、社会のサステナビリティと企業のビジネスモデルが同期化しており、何をすべきかが明確で長期視点の観点から納得感が高いレポートとなっており、今後、統合思考に基づくマテリアリティ重視型の経営を志向する企業にとって、非常に参考になるアプローチを示した点は高く評価できる。

#### 3-2. 住友金属鉱山株式会社

総評: 過去の歴史を踏まえつつ、2020年のありたい姿と2030年のありたい姿を統合的に説明。自社事業の社会的重要性の認識をベースに、長期ビジョンからのバックキャストで中期の経営上の重要課題をしっかりと特定し、それらの解決に向けた取り組みを全編にわたり報告する優れた統合報告書。財務資本提供者に向けた詳細なデータ含め誠意のある情報開示姿勢は他社の模範となりうる。

#### 3-3. 東京応化工業株式会社

総評: 簡潔性には欠けるものの、統合報告書として求められる内容・説明をしっかりと記載しようとする努力が見られる。特にマテリアリティの特定から分析、取り組み、目標、実績、評価、掲載頁、SDGsとのかかわりに関する一覧は、他社のお手本になりうる。また、未来への挑戦の意志を感じ取ることができ、ストーリー性もあり、わかりやすいので、読み手に伝わりやすい報告書となっている。

#### 3-4. 日本ユニシス

総評: 自社の特徴(価値創造プロセス)と経営者の考える将来戦略をしっかりと伝えようとしており、全体のストーリー性もあり、わかりやすい。また、ステークホルダー価値と長期目標の経営を感じ取れる内容となっている。財務・非財務の情報を結び付けようという工夫も見られ、他社の統合報告作成の模範になりうるコンテンツが見られる。

## 【WICI ジャパン「統合報告優良企業表彰」審査委員会】

委員長:松島 憲之(三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) チーフアドバイザー)  
委員:岩永 泰典 (アムンディジャパン チーフ・レスポンシブル・インベストメント・オフィサー)  
内山 哲彦 (千葉大学大学院社会科学研究院 教授)  
小野塚 恵美 (カタリスト投資顧問 取締役副社長 COO)  
金子 美和子 (MS&AD インシュアランスグループホールディングス広報 IR 部長)  
河口 真理子(立教大学 特任教授 不二製油グループ本社 CEO 補佐)  
小西 範幸 (青山学院大学副学長 会計プロフェッション研究科長・教授)  
清水 倫典 (Gマネジメント アンド リサーチ)  
高井 康男 (株式会社ファルコン・コンサルティング 取締役)(事務局兼任)  
富田 秀実 (ロイドレジスタージャパン株式会社 取締役)  
長田 清秀 (東海東京調査センター 執行役員・チーフストラテジスト)  
野村 嘉浩 (PwC あらた有限責任監査法人 PwC あらた基礎研究所主任研究員)  
橋本 明夫 (元バイサイドアナリスト、現東都水産監査役)  
本多 淳 (WICI ジャパン上席研究員)  
松原 稔 (りそなアセットマネジメント 執行役員責任投資部長)  
光定 洋介 (産業能率大学経営学部 教授)

### 審査委事務局

宮永 雅好 (東京理科大学大学院経営学研究科 教授)  
高井 康男 (株式会社ファルコン・コンサルティング 取締役)